

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月25日

【評価実施概要】

事業所番号	3650180189
法人名	医療法人 敬老会
事業所名	グループホーム フォレスト
所在地	徳島県徳島市八万町大野7-1 (電話) 088-669-2223

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成19年 12月 19日

【情報提供票より】(平成19年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 8月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤9人, 非常勤0人, 常勤換算	1番町5.63人, 2番町6.0人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り	
	2 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000~45,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000円		

(4) 利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	16 名	男性	1 名	女性	15 名
要介護1	10 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 83.5 歳	最低	76 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	森岡病院
---------	------

徳島県 グループホームフォレスト 1

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、窓から街の風景や川面に集う渡り鳥などが眺められる高台にある。屋内の中庭には紅葉が植えられ、大きな窓からは太陽の光が十分入り暖かな雰囲気である。職員は利用者一人ひとりの力が最大限発揮でき、生きがいを持って生活ができるように、利用者の希望を可能な限りかなえられるよう心がけるとともに、ゆとりを持って接するようにしている。毎月の保育園児の訪問のほか、俳句などクラブ活動も多様で、地域のボランティア指導者を得るなど地域との交流が積極的に行われている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員会議時において改善課題の話し合いを行い、理念、権利義務の明記、ケア会議の定期的開催と介護計画見直し時の記録、応急手当の定期的勉強会の実施、注意の必要な刃物等の保管管理の明文化と徹底、市及びグループホーム協会との連携等について、改善が図られている。地域、家族へのホームの行事案内等の便りの発行は行なわれているが、家族への利用者の近況報告などの取り組みが改善されていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者、職員で話し合い、日ごろのケア状況を確認しながら自己評価の作成に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は利用者家族、民生委員、地域包括支援センター職員等で構成され、2ヶ月に1回開催されている。会議では、事業所の運営状況や利用者の暮らしぶりを報告して、事業所を知ってもらい取り組みがなされている。また事業所行事への地域の方たちへの協力依頼や参加呼びかけなどの話し合いが行われており、地域の人々とのふれあいやサービスの向上に活かされている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>意見箱の設置や家族の訪問時に声をかけて、意見を出しやすい配慮がなされている。出された意見等は記録してミーティング時に話し合うなどの対応が図られ、業務に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地元町内会に加入し、地域の秋祭りに参加している。ホームには、毎月、保育園児の訪問がある。母体法人の行事でカラオケ大会、バザーなどにはホーム利用者、地域住民が参加している。ホームのイベントには、地域住民に参加協力の依頼をしたり、俳句などの各種クラブ活動の指導ボランティアの依頼などをして、地域の人々との連携、交流をすることに努めている。</p>

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を「生き甲斐を見つけ、共に育む」として、事業所の目指す地域密着型サービスを理念としてつくりあげている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、毎月のミーティング時に理念を唱和し、日々のケアにおいて理念を意識しながら取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元町内会に加入し、地域の秋祭りに参加している。ホームには、毎月保育園児の訪問がある。母体法人の行事でカラオケ大会、バザーなどにはホーム利用者、地域住民が参加している。ホームのイベントには、地域住民に参加協力の依頼や俳句などの各種クラブ活動の指導ボランティアの依頼などをし、地域の人々との連携、交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は外部評価結果及び自己評価について、ミーティング時に話し合いをし、具体的な改善に取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者家族、民生委員、地域包括支援センター職員等で構成され、2ヶ月に1回開催されている。事業所の運営状況や利用者の暮らしぶり、各種イベントへの取り組みなどの報告のほか、参加者からの地元情報提供など、意見交換が行われ、事業所理解やサービス向上に活かされている。会議内容は全職員が共有している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターとの交流を密にし、相談、アドバイスを得ながら、市との連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	行事案内、クラブ活動情報の紙面報告等が実施され、利用者の健康状態等の報告は家族の訪問時や電話での報告になっている。	○	毎月、電話で暮らしぶり等の報告がされているが、紙面による利用者個々の健康状態、近況等の定期的報告(ホーム便り等)が望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や家族の訪問時に声をかけて意見を出しやすい配慮がされ、出された意見は真摯に受け止め、記録している。また、ミーティング時に話し合うなどの対応が図られ、業務に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員の異動などによる利用者へのダメージをよく理解し、極力避けるよう配慮がされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員の習熟度に応じて順番に研修受講ができるよう配慮しており、研修内容はミーティング時に報告して全職員が共有できるようにしている。事業所内においても2ヶ月毎に介護技術講習等勉強会を開催し、職員を育てる取り組みが行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し、情報の収集や、他事業所の訪問を受けるなどされているが、単方向になっている。	○	双方向の交流が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	必ず入居前に利用者、家族に見学してもらい、生活をイメージしてもらうようになっている。体験利用などをしてもらい相談しながら徐々に馴染むことができるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者が人生の先輩であり、家族であることを常に意識しながら、本人の得意分野を見出すことに努め、教えてもらったり、学んだりしながら共に支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の何気ない会話に耳を傾け、利用者一人ひとりとコミュニケーションを取りながら、思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常の関わりの中で、本人、家族の希望や意見を聞き、毎月のミーティングにおいて話し合いが行われ、本人本位の介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度の見直しと、本人の状態変化に応じた随時の見直しが行われ、本人、家族の同意の下、現状に即した新たな介護計画が作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の希望、状況に応じて、かかりつけ医の受診、リハビリの通院や個別の外出支援等柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を大切に、かかりつけ医との報告、相談等の連絡を密にして、適切な医療が受けられるよう迅速な対応をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方について入居者、家族に、協力医療機関の医師の協力の下、適切な施設、病院への移動等があることを説明し、できること、できないことを見極めながら調整や準備を行っており、関係者で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者を人生の先輩として言葉かけや対応に配慮しながら、誇りやプライバシーを損なわない取り組みをしている。管理者はプライバシー確保の配慮に特に気配りしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者への声かけをこまめに行い、思いや希望に早く対応するなどし、一人ひとりのペースに沿った支援を心がけている。食事、入浴などはゆっくり時間を取って支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	紅葉のある中庭を背景に、明るい食堂で、利用者、職員と一緒に準備や食事をしている。介助や会話をしながら食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	15時～21時と時間設定はしているが希望があればいつでも入浴可能にしており、大浴場、家庭用を本人の好みに合わせて使用し、入浴を楽しめるよう支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	買い物、調理、園芸、洗濯物たたみ、庭掃除等の他、園芸、俳句、カラオケ、書道等など趣味活動や外食など一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	暖かい日の散歩や外でのお茶や外食、自宅への帰宅や墓参りなど、個別の希望にも添いながら、いつでも出かけられることの声かけをして戸外に出かける支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけない支援にとりくまれ、職員は、玄関周りを常に視野に入れ、利用者が自由に出入りができるよう配慮をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルがあり、年2回、関連施設と合同で消防訓練を実施し、災害時避難誘導や連絡網の確認をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量をチェック表に記録し、一人ひとりの状態を把握して支援をしている。栄養士資格を持つ職員がいて、栄養バランス等に配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2ユニットの食堂、居間の所に中庭があり日当たりが良く明るい。廊下には、椅子が所々に配置されている。市街を背景に川面に集う渡り鳥等も眺められ、利用者の思い思いに休憩する姿が見られた。生活感や季節感を取り入れた、居心地良く過ごせる工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	机やダンス、テレビ、鏡、カレンダー、椅子、時計など、思い思いの物が持ち込まれ、本人が居心地良く過ごせるよう居室づくりがされている。		